

令和 7 年 10 月 8 日

福島市松川町提灯祭りへの食農学類生の参画と松川学の実践

福島大学食農学類では、福島市松川町を対象に、地元住民、関連組織・団体と連携した「松川学」プロジェクトを実施しています。本プロジェクトでは、見過ごされがちである地方中核都市内の農村部の過疎化問題に着目しており、学生参画型の地元学（地域調査）を実施し、恒常的な交流人口と地域内滞在時間の確保を目指した地域活性化方策の確立や、地域内再投資力の向上（地産地消と 6 次産業化）と交流人口（学生参画型活動の実践）の常態化を目的としています。このたびプロジェクトの一環として、地域文化の保存・再生を目指し松川町提灯祭に食農学類 3 年生 26 名が参加します。

- 日 時：2025 年 10 月 12 日（日）18 時 00 分～20 時 15 分
- 会 場：福島県福島市松川町八丁目 天満宮 出発
福島県福島市松川町杉内 33 福島市役所松川支所 到着
- 主 催：松川地区町内会長会、松川・町づくり委員会 21

取り組み背景

地方の農村部、中山間地域では、いわゆる限界集落対策としての様々な地域振興策が施されてきました。一方で、地方中核都市や中都市（人口 10 万以上）は都市政策の対象であり、典型的な中山間地域対策の対象地域として認識されづらく、周辺農村部における少子高齢化、人口減少問題は構造的に可視化も難しいことが課題です。

地方中核都市である福島市（人口 29 万人）においても、周辺農村部の人口減少、担い手不足の状況が顕在化しつつあります。特に、農業地域類型において「平地」にされるエリアは、中山間地域対策からこぼれがちであり、長期にわたって問題が見過ごされてきました。旧松川町エリアをみると、水原・金谷川は中山間地域に区分されますが、松川・下川崎は平地となります。

このような中、松川提灯祭りの実施にあたって松川町内 10 集落中 3 集落が担ぎ手（青壮年）が不在という事態に至っています（2024 年）。

地域の人口は減少し、地元の秋祭り（松川提灯祭り）の開催も困難になっていると相談を受けたことが、このたびの参加の契機となりました。

（お問い合わせ先）
福島大学食農学類教授 小山良太
電 話：024-548-8387
メール：koyama@econ.fukushima-u.ac.jp